



経営の散歩道

川中経営所長 川中清司

▼新年早々、信用金庫の本町支店で福引をひいたら、特賞が当たった。昼半分ほどの大きな福だ。

「うわー、先生ツイてますね」と職員のみんが手をたたくて喜んでくれた。福の絵の七福神がニコニコ顔で笑っている。今年春から縁起が良い。

▼信用金庫を訪ねたのは街の景気を聞きたかったからだ。パチンコが好況。住宅金融公庫利用の住宅新築の伸びも強く、全国平均の八％をはるかにこえ北陸三県では三八％アップした。

鯖江信用金庫の実績も順調で預金で八・三％、貸出は代理業務を含め五・五％の伸び。本町支店の貸出は六・八％も伸びた。預金をふやすキメ手は、いろいろな預金を一本にする「まとめ運動」の展開。店舗改装で外観も一新した。

▼加藤孝一郎支店長の活躍が光る。入口のすぐ右手、第一線に机を置き、お客さんとの対話を優先する。昼休み時間は自らカウンターに立つ。多忙の寸暇を縫うようにして得意先を廻る。

海外旅行にトライして見聞を広げる。英会話にダンス。宝生流の謡曲は二十六年のキャリアをもつ。

月二回、クリンデーを設けて、早朝から全職員ゼッケン姿もかいがいしく、近隣地域の清掃にくりだす。▼今年のえとの戌（いぬ）で思



いだすのは、南極探検隊のカラフト犬、タロ・ジロの話。

隊におきざりにされても、零下四〇度の厳しい自然に耐えて生きぬいたたくましさは、全世界の感動を呼んだ。

食べたのはペンギンかアザラシの糞か。隊が残しておいた餌には手をつけていない。人間の数十倍の鋭い臭覚とすばやい行動力。環境条件に順応するしたたかさ。こうした野生

的活力こそが、いま不況突破の不可欠要素となっている。

▼経済学者のシュンペーターは「経済の回復に必要なものは合理主義ではない。企業家のワイルド・スピリッツだ」と言う。

野獣のようにたくましく、しぶとい経営努力の積重ねこそが、日本の景気回復の途を切り開く。

▼不況の年は初もうでが多い。正月三日間で戦後最高の八五四万人で、去年より五四万人ほど上回った。大阪の今宮神社では、さい銭が四五〇〇万円较去年より五

第六十八回 がんばる鯖江バル

〇〇万円も多く、百万円一束が投げこまれていた。

祈りは、将来を予測し得ない無力な人間が、願望の成就を神仏にすがるといふ単純なものではない。

▼精神分析学者のフロイトは、祈りは、自らの潜在意識に語りかせる働きがある。真剣に願ひ、ひたすら祈り続けるとき、自らの心の中に、目的達成へのきざしが築かれていく。

人の意識の八〇％は潜在意識であり、これが人の行動を支配すると説いている。

たばこをやめようと思っても、できないのは、「やめられないぞ」という潜在意識が、理性に勝ってしまうからだ。

祈りは、自らの本能や習慣を作り直す不思議な力をもつ。祈りながら信念を抱いて行動するとき、人は目的達成にむかって着実なステップを踏むことができる。

▼君の生涯のうちでもっとも栄光のある日は、勝利の日でも成功の日でもない。

それは悲嘆と絶望の中から、人生に挑戦し今にみろやってみせるぞ、という気持ち湧き上がるのを感じる日なのだ。

フランスの小説家・フロアベルのこの世界は、祈りと行動から到達できよう。

▼生き残るは、英語でサバエバル SURVIVAL。われわれのまち鯖江には、がんばる企業家や市民がいっぱい。がんばるサバエバルー愛する鯖江のまちをこの合言葉で満たそう。めがねも繊維も漆器も、商業も、世界体操も、「がんばるサバエバル」でいこう。新しい年に 乾盃。